



東京部会(第45回)

日時:	2012年1月17日(火) 19:00-21:00
場所:	日本大学経済学部7号館13階会議室3
参加者:	篠原(同志社大)、加藤(日大)、新井(小石川中等教育)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、宮崎(蒲田高)、山崎(北海道豊富高:筑波大院)、横山(本郷中学校高等学校)、升野(筑波大学付属中学校)、中沖(清水書院)、神尾(第一学習社)、石山(東証)、榊原(東証)、鈴木(日本経済教育センター)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、前回の宿題であった「法と経済」のアンケート案についてはまだ検討中であるが、そのヒントとして、経済のパフォーマンスを阻害する法律の例が載っている八代尚宏著『新自由主義の復権』に言及。そのような経済の視点から問題とみなされる法律を調べ上げて検討することは意味があるとのことであった。またそれに関連してNHK高校講座「政治・経済」での篠原先生の「経済分野のまとめ」が配布され、市場に対する政府の介入に工夫が必要な分野として「中小企業」、「農業」、「労働」、「消費者」、「社会保障・福祉」などがあることが指摘された。このそれぞれの分野で不合理あるいは不必要な法律を洗い出してはどうかという提案が参加者からあった。さらに、今後のワークショップなどで法と経済のテーマを取り上げることが検討された。
2. 新井先生よりこの夏の経済教室の最終的な詰めが行われた。詳細はまたまとめて発表される予定だが、現段階では講演のテーマと講師が未定の部分があり、さらなる検討が必要とされた。また入試プロジェクトについては、配布資料に基づいて簡単な報告があり、今月末までに一応の評価と改善点などが出そう予定。
3. 山崎先生より、配布資料に基づき、「国際貿易のカリキュラム評価」に関する報告があった。実験授業の結果を基にカリキュラム評価を行っている点が重要で、興味深い結果と議論であった。最終的な報告は3月末に提出されるとのことであった。
4. 宮尾より、配布資料「2012年大学入試センター試験における経済の問題について」の説明があった。特に問題として、「現代社会」と「政治・経済」では、そもそも経済の問題が少なかったことに加え、市場の需要・供給についての分析的な問題が皆無だったことが指摘された。また歴史や地理でも経済的な問題はほとんどなく、全体として経済軽視の傾向がみられるのではないかといった問題提起があった。
さらに、オープン討論室に投稿された書評「一見もっともらしい『不況・恐慌の本質・真相』本」について、2冊の本が取り上げられ、そのどちらも著者たちが経済学を理解しているようには思えないとの指摘があり、あまり薦められない本とみなされた。

(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定: 2月23日(木)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部7号館13階会議室3。議題は、夏の経済教室の内容の最終決定、入試問題分析プロジェクトの結論、その他。